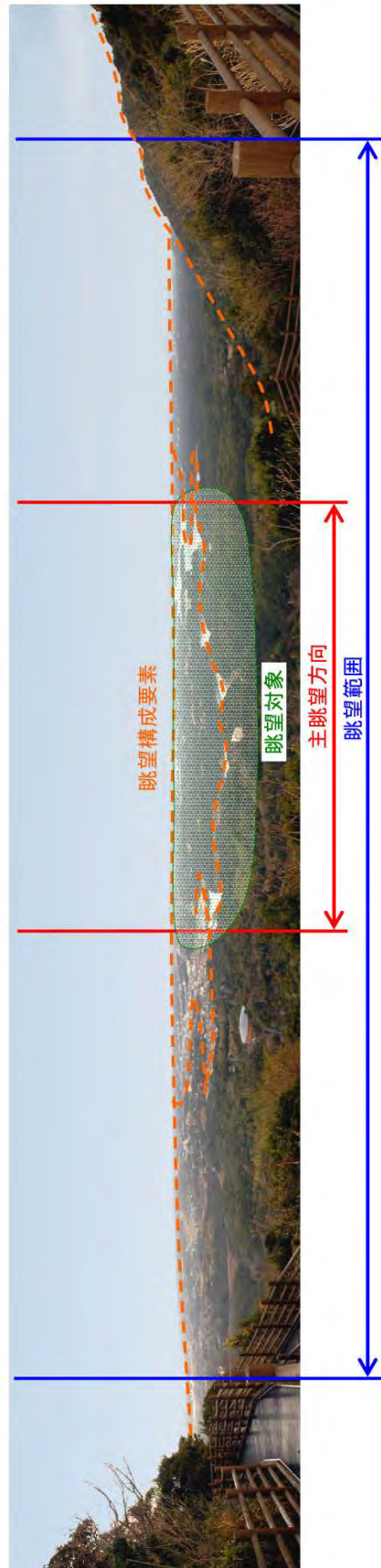
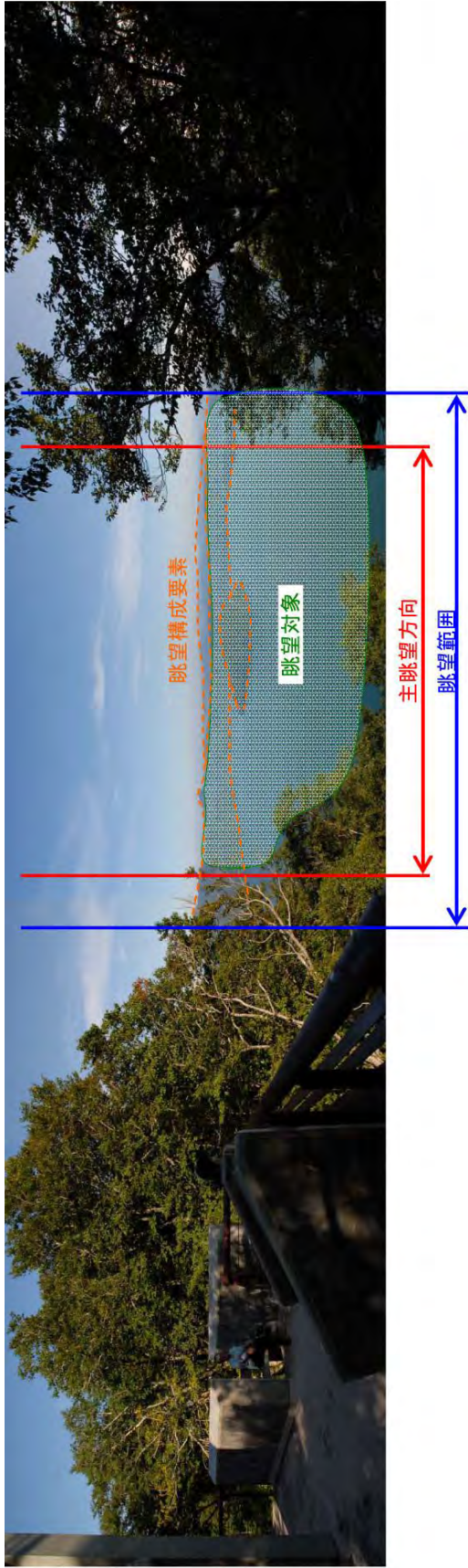


【参考1】主要な展望地からの眺望の確認

■眺望に関わる確認事項

項目	内容	方法等
眺望範囲	展望地からの眺望が開けているすべての方向	・眺望が開けている範囲（方向や角度）を確認し、地図上への図示や現況写真撮影により記録する。 →【参考2】参照
主眺望方向	眺望範囲の中で眺望対象が視認される方向、位置等	・現地確認や利用者の行動観察により、眺望範囲の中で特に眺望の対象として眺められる方向や範囲（方位、角度等）を把握し、地図上への図示や現況写真撮影により記録する。 ・当該展望地を紹介したガイドブック、現地に設置された解説板等に掲載された写真や図版も参考にするとよい。
眺望対象	当該展望地からの眺めの主題となる対象の分布範囲	・主眺望方向の中で、眺望の主題となっている対象を特定し、その具体的な分布範囲、眺望範囲内における位置や視認方位等を地図や写真上に記録する。 →【参考3】参照
眺望構成要素	眺望範囲の眺めを構成する（特徴となる）重要な要素（地形、地物、地被等）、眺望視野内の位置等	・各展望地の眺望の状況に応じて下記に例示する要素の状況（眺望範囲内における視認位置や分布範囲、規模（見込角⇒【参考4】参照）を把握・記録する。 ・スカイライン →【参考5】参照 ・支配線 →【参考6】参照 ・眺めの骨格をなす要素 →【参考7】参照
太陽光発電施設の予測	設置予定の太陽光発電施設を中心に考えたときの見え方	・太陽光発電施設の見える方向、施設までの距離、施設の見え方の大きさを確認する。 ・眺望範囲及び主眺望方向への太陽光発電施設の介在の有無、事業とは別の太陽光発電施設の介在の有無を確認する。 →【参考8】参照



【参考2】現況写真の撮影方法

写真撮影に当たっては、以下の点に注意するとよい。

1. 最適な条件で撮影する

- ・天候：天気（視程）の良い日に撮影する。
- ・時刻：順光で撮影する（基本的に逆光を避ける。）。
- ・季節：各季節（例：新緑期、展葉期、落葉期、積雪期等）の写真撮影しておくが良い。

特に落葉樹を主体とする地域、積雪地では、季節によって視認性や基調をなす色彩が大きく変化するため、太陽光発電施設が設置される場合の見え方や調和する色彩の考え方も大きく変化する。

■季節による眺望変化の典型例



[春]

視点付近の樹木により、主眺望対象の山体は見えにくい。草原の緑と山体の暗緑色のコントラストが大きい。



[夏]

視点付近の樹木が大きく展開葉し、眺望は開けない。



[秋]

落葉により山体が見えやすくなる。草地は黄緑～黄土色を基調とする色彩に変化する。



[冬]

周囲の樹木は完全に落葉し、山体が裾野まで見える。淡茶～灰茶色を基調とする色彩に変化する。

2. 最適な撮影地点を選定する

展望地内において一般の眺望利用が生じる地点を基本とするが、視点近傍の障害物等ができる限り写り込まないように撮影する。特に展望地付近の柵や電柱電線類、看板類等が至近距離で写り込んだ場合、写真の印象が大きく変わるので、注意が必要である。

